

兄弟げんか

天王小・6 菰田 潤

「ねえ、潤出てって。」

姉が大声でさげんだ。ぼくは姉の部屋でいつものようにすすんでいた。ぼくは暑がりなので、一番すずしいエアコンの前、姉の部屋にいます。まだぼくは暑いので、エアコンの前を動かさたくない。けど、暑いのはぼくだけじゃなく、姉も同じだ。だから、ぼくを部屋から追い出そうとする。これがいつものけんかの原因だ。

ぼくの部屋は、今年の六月にできたばかりだ。ぼくは、ぼくの部屋ができたとき、何かがないと思った。エアコンだ。ぼくの部屋にあるのは、母が買ってくれたせん風機があるだけだ。となりの姉の部屋のとびらを開けると、ぼくの部屋につながる。だから今は、とびらを開けてエアコンの風をもらっている。でも、そのとびらから入ってくるエアコンとせん風機だけでは、この地ごくのような暑さはたえられない。ある日、ついにぼくはこの地ごくのような暑さにたえられなくなった。「暑い。」とあせをふきながら姉の部屋に入った。そして、エアコンのリモコンを手に取り、温度を下げた。ぼくの部屋がすずしくなるには、三十分、いや一時間以上はかかる。

「やめて。寒くなる。」

姉が言った。でも、ぼくは、

「やだ。暑くなる。」

と言り返した。こんなむだな言い合いをしているうちに、けんかに

なる。けんかしてばたばたしている間、お母さんは、また始まったとでも思っているんだろうな。でも、そんなことは気にせず、けんかはヒートアップし、次第にぼくらはそれぞれのベッドにつく。ぼくはただ、すずしくなりたいたけなのに、いつも姉に温度を設定される。そして、またぼくが、

「暑い。」

と言って、けんかに発展してしまうんだな。結局、ぼくも悪いのかも。でも、そのことをなぜか認めたくない自分もいる。

ぼくは、自分の部屋ができてうれしい。勉強は集中してできるし、ベッドの上で本を読むこともできる。特にうれしいのは、一人で静かにぐっすりねることができる。

ぼくは考える。冬になったら、ぼくはどうやってこの部屋で過ごすか。夏はこんなに暑いから、冬はとっても寒いだろうな。冬は夏のせん風機みたいにヒーターやストーブを買ってくれるのだろうか。でも、一番いいのはやっぱりエアコンだと思う。冬もとびらを開けて、姉の部屋からあたたかい空気を分けてもらって過ごしていくのだろうか。でも、それも夏と同じように部屋があたたまるには、時間がとても必要だろう。ぼくの部屋があたたまり始めるころには、姉の部屋はぽかぽかで快適なんだろうな。そして、姉の体は十分に温まって、エアコンを止められてしまうかもしれない。そうなる、またけんかになって、だんだんけんかが大きくなる。そして、親に注意され：こんなことは簡単に想像できる。姉や母は、冬のことまでかんがえているのだろうか。ぼくの部屋にエアコンがないだけで、またけんかが起こることを。個人的には、しっかりと考えてもらいたい。

母にエアコンを買ってほしいとお願いしてみた。すると母は、

「買ってもいいけど、電気代が今よりかかる

からなあ。」

と言った。そんな状況が続いて、なかなかエアコンを買いに行こうとしない。しかし最近、ぼくの気持ちを分かってくれたからなのか、姉がぼくの部屋にエアコンをつけることに賛成してくれた。

「母さん、潤にエアコンを買ってあげてよ。」と言ってくれる。でも母は、

「ううん、どうしようかな。」となやんでいる。姉が母に言ってくれて、そのしゅん間、うれしくなったし、いつもはけんかばかりしている姉に感謝することができた。いつもけんかしたり、おこらせたりにしてしまっていた姉に少しだけごめんと思った。ぼくは、けんかのことをしっかりと姉に謝って、両親を説得し、冬になる前にエアコンを買ってもらいたい。そうしたら、きっとぼくと姉のけんかはなくなり、もっと仲良くできるだろう。けんかをして迷惑をかけてしまっていた母にも、迷惑がかからなくなり、母は不安なことがなくなると思う。そうして、みんながこの家にいることが楽しくなると思う。だから、早めに両親を説得し、エアコンを買ってもらいたい。